

第18回

TAZMO[®]
 タツモベトナム

TAZMO VIETNAM CO.,LTD.



タツモベトナムの小会社長

●業務内容

液晶製造装置、半導体製造装置、各種搬送ロボット、精密金型・樹脂成型品、プリント基板検査装置、などの開発・製造

●ベトナム所在地

Road 12, Tan Thuan EPZ Dist.7, HCMC
 Tel: 08-3770-0664 Fax: 08-3770-0766
 URL : <http://www.tazmo-vn.com/jp/>

●日本本社所在地

〒715-8603 岡山県井原市木之子町6186
 Tel: 0866-62-0923 Fax: 0866-62-0948

タツモ株式会社は、岡山県井原市に本社を置く機械設備製造企業です。タツモでは2001年ごろから海外進出の準備を始め、2003年には中国・上海市にキャリアテープの製造・販売拠点として、はじめて海外製造会社が設立されました。

更に2008年には、ホーチミン市のタントアン輸出加工区内に半導体製造装置、搬送ロボットの製造を行う“タツモベトナム”が設立されました。今回は、タツモベトナムの小会社長にお話を伺いました。

—御社の事業内容を教えてくださいか？
 弊社の親会社であるタツモ株式会社は、広島県との県境の街、井原市に本社を置く機械設備製造会社です。事業内容としては、大きく分けまして3つの事業があります。

一つ目は、液晶装置部門で、テレビやパソコン・携帯電話の画面に使われているカラーフィルターガラス基板に顔料を塗布する装置の設計と製造を行っています。実は弊社の液晶塗布装置はこの分野では世界的に高いシェアを誇っています。

二つ目は、システム機器部で、こちらではパソコンや携帯電話などでよく使われる半導体を製造する装置や半導体のウェハーを搬送するロボットの設計と製造を行っています。

三つ目は、精密金型・樹脂成型品部門です。この部門ではキャリアテープや精密射出成

型品の製造を行っています。タツモベトナムは、この3部門の中で主に半導体関連の製品の製造・設計を行うことを目的に2008年6月に設立されました。

—ベトナム進出の経緯を教えてくださいか？

弊社の場合、2002年ごろから優秀な技術者の確保・育成とコスト削減を目的とした海外進出が検討されるようになり、2003年に上海に初の海外製造拠点としてキャリアテープの製造・販売を目的とした現地法人が設立されました。

その後、半導体製造装置部門も海外展開が検討されるようになり、中国とベトナムの2カ国が候補として挙がりました。中国は将来有望なマーケットとしての魅力がありましたが、

製造業としては勤勉で真面目な国民性などを考慮しベトナムへの進出を選択し設立候補地として、ハノイ、ダナン、ホーチミン近郊など様々な地域の工業団地を調査しましたが、最終的にホーチミン市の中心部に近くワーカーやスタッフの募集が比較的容易で税制面で輸出企業に有利な点などからタントアン輸出加工区に決定しました。

—現地法人の設立段階で特に大きな問題などありましたでしょうか？

進出先の選定からは、比較的スムーズに設立まで行うことが出来ましたが 設立許可までには3,4ヶ月かかったかと思います。長いのか短いのか解りませんが想定の範囲内でしたので特に大きな問題というのはありませんでした。



液晶製造装置



半導体製造装置



ウェハー搬送ロボット

―社員の採用に関しては如何でしょうか？

2008年の設立時には6名からのスタートでしたが、その内5名は現在でも弊社で働いてくれています。彼らが中心となって新人の指導に当たってくれますので大変助かっています。現在ではワーカーとスタッフ合わせて62名の社員が在籍しております。社員の採用は工業団地の管理委員会からの紹介、インターネットの求人広告、人材紹介会社の利用など様々な方法で行いました。

2009年のリーマンショックの頃は不景気のどん底で希望の就職・転職先が少ないのか数名の採用に対し50人以上が応募してくることもありました。また入社した社員もロボットという技術系の人間には興味をそそられる仕事の面白さも加わってか優秀な人材を採用する事が出来ました。ただ、最近は特にソフトウェア技術者や加工熟練者の賃金が上昇し、引き抜きや外資系企業の進出が増え多少社員の採用が難しくなっているように感じます。

―社員への研修制度などはありますか？

まず、弊社の場合日系企業ですので、スタッフへの日本語教育を行っております。

当初は日本語の得意な社員が先生になって日本語学習などもやりましたが、残業や用事のあるスタッフが参加できないなどまとまった学習が難しかったため、現在は将来性のある優秀なスタッフには日本語学校へ通ってもらいその費用を会社でサポートしています。

また技術面に関しては、日本への技術研修と日本人技術者が来越し技術指導を行う2通りの方法で研修を実施しています。日本からの技術者は毎月入れ替わりでベトナムに来て指導をしてもらっていますし、日本へ

も定期的にベトナム人スタッフを研修に行かせています。ただ、日本での技術研修は技術の向上という面では確かに有効ですが、どうしても研修した技術が本人だけに留まりがちで、帰国後の社員同士の水平展開があまり進まないことがありますので、現在は日本から技術者に来てもらって社員に対して平等に技術指導をして競わせるほうが有効だと考えています。

―ベトナム人社員への評価は如何ですか？

個人的にはベトナム人は優秀な人が多いと思います。また、向上心が強く素直な人が多いのも印象的です。私は以前上海にも駐在していたのですが、その時と比較してもベトナムのスタッフは分からないことは熱心に質問してきますし、慎重に仕事を進める印象があります。

また、若い人が多く熱気を感じますし、年上の人のお話を真摯に聞く文化があるのも非常に良い点だと思っています。他国と比べてベトナム人は基本的に日本人の感覚に近いものを持っている人が多いように思います。

―ベトナム人社員の離職率は高いですか？何か特別な対策などされていますか？

弊社は、組立部門では多品種で注意が必要となる作業工程が多い仕事なので、社員が一人前の技術力をつけるには長い経験が必要となります。現在は創業から3年を経過し、ようやく初期に採用したスタッフの技術力がアップしてきたのが感じられるようになってきたところなので退職者が出ることは非常に大きな損失になります。日本に比べ退職者が多く出ることを想定し日本よりも一人一人の作業工程を細分化させて、もし作業者が辞めてしまった場合にも代替りの人間が出来る限り早く対応できるように作業配分を

配慮しています。

それでも出来る限り長く働いてもらうために、全スタッフとの食事会を定期的に行い、社員の誕生日には、責任者の私から当人への思いや気持ちを書いたメッセージとケーキのギフトカードを渡すなどして社員との親睦を深めるようにしています。

―今後の展望を教えてくださいませんか？

タツモベトナムは、今年で設立から3年が経過し、お蔭様でようやく事業を安定して行える基盤が出来上がってきました。今後は、現在メインで行っている半導体製造装置部門の設計、機械加工、組立などの業務以外に本社の別部門である液晶装置の製造や精密加工についてもベトナムでの事業展開を考えています。

特に設計部門と加工部門は更に技術力を向上させ充実させていきたいと考えています。

現在のところ弊社で製造した製品は全て日本への輸出向けですが、今後は設備を増強してベトナム国内でも仕事を獲得して行きたいと考えています。

機械部品の加工、組立てには高い技術とノウハウを有していると自負しておりますので、もし、在ベトナムの企業様の中で機械の製造、部品の加工でお困りのことがあれば、何なりとご相談いただきたいと思います。ベトナムはこれから益々経済発展の見込まれる国ですので、その発展に合わせて弊社も更に飛躍していきたいと考えています。

ありがとうございました。



工場外観風景



オフィス入口



工場作業風景